

## マッチの進行

1. 双方のプレーヤーがサービスラインの外側中央に立ち、ネットの方向に向かい合い整列する。(Aプレーヤーが右側に、Bプレーヤーが左側に整列することが多い。)
2. 正審の合図及び「集合」のコールによって双方がネットまで進み挨拶をし、次にアンパイヤーに挨拶する。
3. 挨拶の際のアンパイヤーの位置は、ネットをはさんで正審と副審が審判台側のサイドラインの外側に立ち、線審は正審及び副審のベースライン側に一人ずつ分かれて立つ。正審のコールによりプレーヤーがネットに近寄ったら、アンパイヤーもサービスコート中央まで近寄る。
4. 挨拶が終わった後、正審はプレーヤーの確認をする。
5. 団体戦の場合は、双方のチーム全員が、ベースラインの外側に横一列になって、ネットの方向に向かって立ち、正審の正審の合図及び「集合」のコールによって双方がネットまで進み挨拶を行う。監督がいる場合は、最もアンパイヤー寄りの位置とする。チーム全体の挨拶後は、個々の対戦ごとに個人戦と同様に進める。
6. マッチ開始前の挨拶が終わった後、双方の片方のプレーヤーが「ジャンケン」を行い(Bプレーヤー同士がすることが多い。)、負けた側がラケットの公認マーク(こちらが表となる)を相手に示してラケットをコートに立てて回す。
7. ラケットが静止する前にジャンケンに勝った側が「表」又は「裏」と言う。
8. 言い当てた場合先取権を得、言い当てなかった場合はジャンケンで負けた側が先取権を得る。
9. 先取権を得たプレーヤーは、サービスとレシーブのいずれか、又はサイドを選択する権利を得る。相手のプレーヤーは先取権を得たプレーヤーが選ばなかったものについて選択する権利を持つ。
10. サービス及びレシーブ並びにサイドが決まった後、プレーヤーはマッチ開始前の練習をし、アンパイヤーは位置につく。(練習時間は通常1分以内とする。)
11. 所定の練習時間が終了した後、正審は「レディ」とコールしてプレーヤーをマッチ開始の位置につかせる。
12. プレーヤーが位置についた後、正審は「サービスサイド〇〇(所属)〇〇・〇〇(ペア)、レシーブサイド〇〇(所属)〇〇・〇〇(ペア)、〇ゲームマッチ、プレーボール」等とコールし、マッチを開始する。
13. マッチが終了した後、正審は「ゲームセット」のコールをして直ちに審判台を降り、プレーヤーを待たせないように、マッチ開始(トスの位置)の挨拶をした位置に立つ。
14. プレーヤー及び他のアンパイヤーもネットの傍に寄る。
15. 正審が「〇対〇で〇〇ペアの勝ち」等と勝敗の宣言をした後、プレーヤー同士、そしてプレーヤーとアンパイヤーが挨拶をして解散する。(最近では挨拶の際、プレーヤー同士の挨拶でお互い握手することを推奨されている。)